

平成 29 年 9 月 4 日

国立大学法人北海道教育大学長 殿

国立大学法人北海道教育大学  
教員養成改革推進外部委員会  
委員長 名 子 学

平成 27 年 11 月 27 日北教大教第 73 号で要請のあった国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会の意見の提出を行うため、別添「国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項（平成 29 年度実施分）」（以下「要項」という。）に基づき点検及び評価を実施することといたしましたので、お知らせします。

については、下記により報告を依頼します。

また、要項において授業の視察又は職員へのヒアリングを随時実施することといたしましたので、対応方よろしくお願いします。

#### 記

提出期限 平成 29 年 11 月 10 日（金）

報告様式 要項第 4 に定める点検シートによる。報告は、紙媒体及び電子データとする。

提出先 国立大学法人北海道教育大学  
学務部教務課教員養成改革グループ（担当：安藤）  
e-Mail：ando.hiroyasu@j.hokkyodai.ac.jp

その他 要項の電子データを添付しますので、点検シートの作成はこれにより作成願います。

国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項（平成 29 年度実施分）

平成 29 年 9 月 4 日国立大学法人北海道教育大学  
教員養成改革推進外部委員会制定

（目的）

第 1 平成 27 年 11 月 27 日付け北教大教第 73 号で学長から要請のあった以下に掲げる事項について点検及び評価を実施するものとする。

- （1）平成 27 年度教員養成課程における実践的教員養成の状況（以下「要請 A」という。）
- （2）現職研修プログラム開発への参画について（以下「要請 B」という。）

委員会はこの要請に応えるため、以下のとおり点検及び評価を実施する。

（実施期間）

第 2 平成 29 年度点検及び評価の実施期間は、平成 29 年 9 月 4 日から平成 30 年 2 月 28 日までとする。

（評価基準）

第 3 評価基準は、別表の「要請区分」ごとの「観点」とする。

（点検事項・方法）

第 4 点検は、別表の「観点」ごとの「点検事項」に基づき委員会が点検シートを作成し、大学が当該シートに所要の記載等を行い報告することにより実施する。

（評価及び意見のまとめ）

第 5 「観点」ごとに、報告された点検シートに基づき「分析結果とその根拠理由」及び「優れた点及び改善を要する点」にまとめる。

2 前項のまとめをもって、学長の要請にある「途中段階の意見」として提出する。

(授業の視察等)

第6 点検及び評価にあたり、必要に応じ随時、授業の視察又は職員への教育研究・地域貢献の状況に関するヒアリングを実施する。

(点検・評価のスケジュール)

第7 点検及び評価のスケジュールは次のとおりとする。

平成29年9月4日 学長へ実施要項及び点検シートの提示・作成依頼

授業視察・ヒアリング開始(随時実施)

平成29年11月10日 点検シート回収

「分析結果とその根拠理由」及び「優れた点及び改善を要する点」のまとめ開始

平成30年2月28日 学長へ「途中段階の意見」の提出

別表

要請区分	観点	観点の説明	点検事項
A	A-29-1 ・教育者としての倫理を身につける教育が行われているか。	社会一般では、各組織は、所属する職員に対し在職期間を通じて多くの研修を実施しており、その中でコンプライアンスは重要なテーマとなっている。そのような社会環境にあって、教員は他の職業と比較して、特に高い倫理観が求められるところであり、養成期間を通じてその基本となることを、現在の学校現場を取り巻く状況を踏まえて、修得させる必要がある。	・授業の体系及び体系の各段階において身につけさせる内容について、授業科目（授業の目標を含む）・履修年次・必修or選択を含めて説明すること。その際、現在の学校現場の取り巻く状況をどのように取り込んでいるかの説明を含めること。また、観点に応える理由についても付記すること。
	A-29-2 ・新任教員として、今学校現場にある下記の課題をよく理解し取り組むことができる、実践的教育が行われているか。 ・職務状況と業務改善（チーム学校への対応） ・コミュニティ・スクール ・外部との連携（適切な情報発信を含む） ・ガイドライン等に基づく適切な部活動指導 ・教員の年齢構成のギャップ	現在の学校現場において、新任教員であっても直ちにこれら課題に対応することが求められている。制度的・理論的理解のみならず、養成期間において十分な体験と、ケーススタディによって実践的な理解を身につけることが求められる。	・授業の体系及び体系の各段階において身につけさせる情報・知識・技能について、授業科目（授業の目標を含む）・履修年次・必修or選択を含めて説明すること。その際、これらの課題をどのように捉えているか、内容の説明を含めること。また、観点に応える理由についても付記すること。
	A-29-3 ・生活の乱れ、いじめ及び不登校にかかる生徒指導を実践できる基礎的な技術を身につける教育が行われているか。	現在の学校現場においては、教科の指導力とともに生徒ひとりひとりがもつ、これらの課題に対応できる実践的な能力が教員ひとりひとりに求められる状況にあり、新任教員であってもケーススタディや実践によって基礎的な技術を身につけることが求められる。	・授業の体系及び体系の各段階において身につけさせる情報・知識・技能について、授業科目（授業の目標を含む）・履修年次・必修or選択を含めて説明すること。その際、生活の乱れ、いじめ及び不登校にかかる生徒指導をどのように捉えているか、内容の説明を含めること。また、観点に応える理由についても付記すること。
	A-29-4 ・実践力ある初任教員の養成のために、学校現場の課題（観点A-29-1～3を含む）に向かい合った教育実習を構築できているか。また、教育実習の前後を通じてこれらの課題へ対応できる資質、課題の理解及び指導技術の向上を継続しているか。	実践力のある新任教員を養成するためには、養成の過程で実践性が担保されなければならない。教育実習は、まさにそのことを教授するための機会であるが、担保すべき内容が実習先で異なることがあってはならないし、学校現場の課題と向き合った教育実習に関する考え方が設定される必要がある。さらに教育実習後においても、その振り返りのもとに、さらなる資質、課題の理解及び指導技術の向上を継続し実践力の養成を図る必要がある。そのためには、教育実習の前後を通じて学校現場の課題に向き合った課題解決型授業による実践的経験や教師としてのキャリア形成の理解が求められる。	・教育実習の目標（学校現場の課題（観点A-29-1～3を含む）をどのように取り込んでいるかを含む）及び修得すべき事項並びに成績評価の方法を説明すること。 ・教育実習の前後において、教育実習の目標に含めた学校現場の課題に向き合った課題解決型授業を実施しているか説明すること。 ・教師としてのキャリア形成の理解を図る教育を行っているか説明すること。 ・教育実習の開発に、学校現場の経験のある教員の意見を組み入れているか、開発の仕組み、対応組織を含め実績を説明すること。 ・授業・教育課程の開発に、学校現場の経験のある教員の意見を組み入れているか、開発の仕組み、対応組織を含め実績を説明すること。 ・また、観点に応える理由についても付記すること。
B	B-29-1 ・学校現場の調査により学校現場にある種々の課題を明らかにし、課題に対応した現職研修プログラム等の研究や開発が行われているか。また、現職研修等への支援が行われているか。	平成27・28年度の点検においては、現職研修を実施する側の課題としている事項を観点に大学の状況の報告を受けた。このたびは、大学の研究者の観点にある取組の状況を点検し、どのような課題認識がありどのような研究が行われ、どのような支援が行われているかを明らかにし、現職研修プログラム参画の仕組みについて検討を深める。	・各教員の、過去2年間に実施した調査の対象・研究の成果・成果の還元状況について説明すること。 ・各教員の、過去2年間の現職研修等への係わり（学校や教育委員会の研修のプログラム開発への参画、研修の講師や助言者としての参画、その他現職支援の取組）の状況について説明すること。 ・現職研修、公開講座等の社会との連携にかかる取組状況（担当組織、窓口を含む）について説明すること。 ・大学として、現職研修プログラム参画にあたり、教育行政（教育研究所含む）・学校現場・保護者や地域とどのような仕組み作りが必要と考えるか説明すること。また併せて、公開講座等の社会との連携についてどのような仕組み作りが必要と考えるか説明すること。

国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項に基づく点検シート（平成 29 年度実施分）

観 点	A-29-1 ・教育者としての倫理を身につける教育が行われているか。
観点の説明	社会一般では、各組織は、所属する職員に対し在職期間を通じて多くの研修を実施しており、その中でコンプライアンスは重要なテーマとなっている。そのような社会環境にあって、教員は他の職業と比較して、特に高い倫理観が求められるところであり、養成期間を通じてその基本となるところを、現在の学校現場を取り巻く状況を踏まえて、修得させる必要がある。
点検事項	・授業の体系及び体系の各段階において身につけさせる内容について、授業科目（授業の目標を含む）・履修年次・必修 or 選択を含めて説明すること。その際、現在の学校現場の取り巻く状況をどのように取り込んでいるかの説明を含めること。また、観点に応える理由についても付記すること。
※作成部局名	
<p>※ [観点に係る状況] 作成日 平成 年 月 日          （上記観点及び観点の説明を踏まえ、点検シート（平成 29 年度実施分）別葉を作成し、以下に「観点に応える理由」を記述する。必要に応じ点検事項以外について記載して構わない。別紙記載可）</p>	
<p>※ [関係資料]          （上記を証明する資料の名称を記載し、当該資料を添付する。別紙記載可）</p>	

国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項に基づく点検シート（平成 29 年度実施分）

観 点	<p>A-29-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員として、今学校現場にある下記の課題をよく理解し取り組むことができる、実践的教育が行われているか。</li> <li>・職務状況と業務改善（チーム学校への対応）</li> <li>・コミュニティ・スクール</li> <li>・外部との連携（適切な情報発信を含む）</li> <li>・ガイドライン等に基づく適切な部活動指導</li> <li>・教員の年齢構成のギャップ</li> </ul>
観点の説明	<p>現在の学校現場において、新任教員であっても直ちにこれら課題に対応することが求められている。制度的・理論的理解のみならず、養成期間において十分な体験と、ケーススタディによって実際的な理解を身につけることが求められる。</p>
点検事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の体系及び体系の各段階において身につけさせる情報・知識・技能について、授業科目（授業の目標を含む）・履修年次・必修 or 選択を含めて説明すること。その際、これらの課題をどのように捉えているか、内容の説明を含めること。また、観点に応える理由についても付記すること。</li> </ul>
※作成部局名	

※ [観点に係る状況] 作成日 平成 年 月 日  
 （上記観点及び観点の説明を踏まえ、点検シート（平成 29 年度実施分）別葉を作成し、以下に「観点に応える理由」を記述する。必要に応じ点検事項以外について記載して構わない。別紙記載可）

※ [関係資料]  
 （上記を証明する資料の名称を記載し、当該資料を添付する。別紙記載可）

国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項に基づく点検シート（平成 29 年度実施分）

観 点	A-29-3 ・生活の乱れ、いじめ及び不登校にかかる生徒指導を実践できる基礎的な技術を身につける教育が行われているか。
観点の説明	現在の学校現場においては、教科の指導力とともに生徒ひとりひとりがもつ、これらの課題に対応できる実践的な能力が教員ひとりひとりに求められる状況にあり、新任教員であってもケーススタディや実践によって基礎的な技術を身につけることが求められる。
点検事項	・授業の体系及び体系の各段階において身につけさせる情報・知識・技能について、授業科目（授業の目標を含む）・履修年次・必修 or 選択を含めて説明すること。その際、生活の乱れ、いじめ、不登校にかかる生徒指導をどのように捉えているか、内容の説明を含めること。また、観点に応える理由についても付記すること。
※作成部局名	
<p>※ [観点に係る状況] 作成日 平成 年 月 日          （上記観点及び観点の説明を踏まえ、点検シート（平成 29 年度実施分）別葉を作成し、以下に「観点に応える理由」を記述する。必要に応じ点検事項以外について記載して構わない。別紙記載可）</p>	
<p>※ [関係資料]          （上記を証明する資料の名称を記載し、当該資料を添付する。別紙記載可）</p>	

国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項に基づく点検シート（平成 29 年度実施分）

観 点	<p>A-29-4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実践力ある初任教員の養成のために、学校現場の課題（観点 A-29-1～3 を含む）に向かい合った教育実習を構築できているか。また、教育実習の前後を通じてこれらの課題へ対応できる資質、課題の理解及び指導技術の向上を継続しているか。</li> </ul>
観点の説明	<p>実践力のある新任教員を養成するためには、養成の過程で実践性が担保されなければならない。教育実習は、まさにそのことを教授するための機会であるが、担保すべき内容が実習先で異なることがあってはならないし、学校現場の課題と向き合った教育実習に関する考え方が設定される必要がある。さらに教育実習後においても、その振り返りのもとに、さらなる資質、課題の理解及び指導技術の向上を継続し実践力の養成を図る必要がある。そのためには、教育実習の前後を通じて学校現場の課題に向き合った課題解決型授業による実践的経験や教師としてのキャリア形成の理解が求められる。</p>
点検事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育実習の目標（学校現場の課題（観点 A-29-1～3 を含む）をどのように取り込んでいるかを含む）及び修得すべき事項並びに成績評価の方法を説明すること。</li> <li>教育実習の前後において、教育実習の目標に含めた学校現場の課題に向き合った課題解決型授業を実施しているか説明すること。</li> <li>教師としてのキャリア形成の理解を図る教育を行っているか説明すること。</li> <li>教育実習の開発に、学校現場の経験のある教員の意見を組み入れているか、開発の仕組み、対応組織を含め実績を説明すること。</li> <li>授業・教育課程の開発に、学校現場の経験のある教員の意見を組み入れているか、開発の仕組み、対応組織を含め実績を説明すること。</li> <li>また、観点に応える理由についても付記すること。</li> </ul>
※作成部局名	
<p>※〔観点に係る状況〕作成日 平成 年 月 日  （上記観点及び観点の説明を踏まえ、点検シート（平成 29 年度実施分）別葉を作成し、以下の事項を記述する。必要に応じ点検事項以外について記載して構わない。別紙記載可）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育実習の目標（学校現場の課題（観点 A-29-1～3 を含む）をどのように取り込んでいるかを含む）</li> <li>教育実習で修得すべき事項</li> <li>教育実習の成績評価の方法</li> <li>教師としてのキャリア形成の理解を図る教育の状況</li> <li>教育実習の開発に、学校現場の経験のある教員の意見を組み入れているか、開発の仕組み、対応組織を含めた実績</li> </ul>	



国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項  
に基づく点検シート（平成 29 年度実施分）

- ・ 授業・教育課程の開発に、学校現場の経験のある教員の意見を組み入れているか、開発の仕組み、対応組織を含めた実績
- ・ 観点に応える理由

---

※ [関係資料]

（上記を証明する資料の名称を記載し、当該資料を添付する。別紙記載可）

国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項に基づく点検シート（平成 29 年度実施分）

<p>観 点</p>	<p>B-29-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場の調査により学校現場にある種々の課題を明らかにし、課題に対応した現職研修プログラム等の研究や開発が行われているか。また、現職研修等への支援が行われているか。</li> </ul>
<p>観点の説明</p>	<p>平成 27・28 年度の点検においては、現職研修を実施する側の課題としている事項を観点に大学の状況の報告を受けた。このたびは、大学の研究者の観点にある取組の状況を点検し、どのような課題認識がありどのような研究が行われ、どのような支援が行われているかを明らかにし、現職研修プログラム参画の仕組みについて検討を深める。</p>
<p>点検事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員の、過去 2 年間に実施した調査の対象・研究の成果・成果の還元の状況について説明すること。</li> <li>・各教員の、過去 2 年間の現職研修等への係わり（学校や教育委員会の研修のプログラム開発への参画、研修の講師や助言者としての参画、その他現職支援の取組）の状況について説明すること。</li> <li>・現職研修、公開講座等の社会との連携にかかる取組状況（担当組織、窓口を含む）について説明すること。</li> <li>・大学として、現職研修プログラム参画にあたり、教育行政（教育研究所含む）・学校現場・保護者や地域とどのような仕組み作りが必要と考えるか説明すること。また併せて、公開講座等の社会との連携についてどのような仕組み作りが必要と考えるか説明すること。</li> </ul>
<p>※作成部局名</p>	
<p>※ [観点に係る状況] 作成日 平成 年 月 日          （上記観点及び観点の説明を踏まえ、点検事項について以下に記述する。必要に応じ点検事項以外について記載して構わない。別紙記載可）</p>	
<p>※ [関係資料]          （上記を証明する資料の名称を記載し、当該資料を添付する。別紙記載可）</p>	

点検シート（平成29年度実施分）別葉

観点：A-29-1

※専攻ごとに異なる場合は、それぞれ別葉で作成する。該当する箇所を■で標記すること。

共通

専攻：（専攻名）

※「前・後」の記入は、前期は「前」と後期は「後」と記載する。

※「必・選」の記入は、必修は「必」と選択必修は「選」と記載する。

年次	前・後	必・選	授業科目	授業の目標
1年次において身につける内容（学校現場を取り巻く状況をどのように取り込んでいるか）：				
2年次において身につける内容（学校現場を取り巻く状況をどのように取り込んでいるか）：				
3年次において身につける内容（学校現場を取り巻く状況をどのように取り込んでいるか）：				
4年次において身につける内容（学校現場を取り巻く状況をどのように取り込んでいるか）：				

点検シート（平成29年度実施分）別葉

観点：A-29-2

※専攻ごとに異なる場合は、それぞれ別葉で作成する。該当する箇所を■で標記すること。

共通

専攻：（専攻名）

※「前・後」の記入は、前期は「前」と後期は「後」と記載する。

※「必・選」の記入は、必修は「必」と選択必修は「選」と記載する。

※学校現場での体験，ケーススタディーを内容に含む場合は，授業科目名の末尾に「\*」を付すこと。

年次	前・後	必・選	授業科目	授業の目標
1年次において身につける情報・知識・技能（観点の課題をどのように捉えているかを含む）：				
2年次において身につける情報・知識・技能（観点の課題をどのように捉えているかを含む）：				
3年次において身につける情報・知識・技能（観点の課題をどのように捉えているかを含む）：				
4年次において身につける情報・知識・技能（観点の課題をどのように捉えているかを含む）：				

点検シート（平成29年度実施分）別葉

観点：A-29-3

※専攻ごとに異なる場合は、それぞれ別葉で作成する。該当する箇所を■で標記すること。

共通

専攻：（専攻名）

※「前・後」の記入は、前期は「前」と後期は「後」と記載する。

※「必・選」の記入は、必修は「必」と選択必修は「選」と記載する。

年次	前・後	必・選	授業科目	授業の目標
1年次において身につける情報・知識・技能（観点の課題をどのように捉えているかを含む）：				
2年次において身につける情報・知識・技能（観点の課題をどのように捉えているかを含む）：				
3年次において身につける情報・知識・技能（観点の課題をどのように捉えているかを含む）：				
4年次において身につける情報・知識・技能（観点の課題をどのように捉えているかを含む）：				

観点：A-29-4

・教育実習の前後に履修すべき授業科目のうち、学校現場の課題に向き合った課題解決型授業の状況を下記に記載すること。なお、観点A-29-1～3に記載の授業科目で該当する場合も記載すること。

※専攻ごとに異なる場合は、それぞれ別葉で作成する。該当する箇所を■で標記すること。

共通

専攻：（専攻名）

※「前・後」の記入は、前期は「前」と後期は「後」と記載する。

※「必・選」の記入は、必修は「必」と選択必修は「選」と記載する。

年次	前・後	必・選	授業科目	授業の目標（学校現場の課題を含む）
<b>教 育 実 習</b>				